

復興した鐵道博物館

鐵道省では震災の爲め焼失した同省前鐵道がード下の鐵道博物館の復舊を急ぎつゝあつたが、愈四月三日に開館式を行ふ由、同館は大正九年十月十五日鐵道開通五十周年記念の爲めに創設せられたもので、陳列品一萬以上を有したが全部震災の爲め焼失した今回同館復舊に就ての陳列品は約五千點で鐵道に關する統計表日本及び歐米の機關車の模型及び寫眞文獻類其他が陳列され一般に公開する由である

潜函史航式(雪の隅田川に)

隅田川の新永代橋の底に永久に沈めらるべき潜函史航式は、一月三十日正午雪紛々たる中に華々しく行はれた、復興局の局旗に飾られた長さ八十尺巾二十尺、高さ二十二尺の大潜函は、正午のドンを合圖に萬歳聲裏に四隻の曳船に曳かれて藏前河岸を離れた潜函には三外人技師、正子技師、倉石、神保技手以下機械工十名、指揮モーターには森田橋技師、來賓船には直木長官、太田部長、田中課長、釘宮技師乗込み大川を除行し六時ポンプで河水の深淺に應じ潜函を浮沈せしめつゝ兩國橋一時、新大橋一時半、永代橋へ二時半に着した、(藏前吃水十三尺、兩國橋下十四尺、新大橋下十二尺、永代十一尺)

選抜人夫五十名

新永代橋の工事

新永代橋の工事に大がゝりな方法を選んだ復興局では舊臘その基礎をなす「ケーソン」の進水式を終つて、目下盛んに杭打ちをやつて工事用のプラットホームをつくつてゐるが、それもほごんぎ出来上つたのでいよいよ近日中から珍しい架橋工事をはじめるところになつた、この「ケーソン」による工事は二月の中旬

から初めるこゝになるが、何しろ河底數十尺の地下でしかも壓搾空氣を利用して水を排除した函の中でむづかしい仕事をするのだからさても弱々しい身體の所有主では續かない、その上花柳病者もいけないさいふので一時人夫の志願者がなく大弱りだつたがそれもさうやら五十名ばかり集まつたので仕事に着手されるこゝになり、電氣も早稻田龜戸の兩變電所さ更に他の變電所からあぶぎ萬一の場合にあてる設備もすつかり整つたので愈々工事は盛に進められる由

最近着手した復興三橋

復興事業中最近土木工事に着手した諸橋梁は左の如くである。

一、常盤橋新設工事の内下部一工事

本橋梁は麴町區錢瓶町河岸より日本橋區北鞘町河岸に至る幹線三十三號路線に架設せらるゝものにして橋長四一米橋幅二七米二徑間の鐵筋混凝土拱なるが本工事は橋臺橋脚の下部一部の築造を爲すものなり、工事日數二百五十日間

一、藏前橋新設工事の内第二號橋脚根堀及基礎杭打工事

本橋梁は淺草區藏前片町より本所區横網町に至る間幹線第二十二號路線隅田川横斷ヶ所に架設せらるゝものにして橋長一六〇米橋幅二二米中央徑間は二鉸鋼拱左右側徑間は鐵筋コンクリートなるが本工事は其の内第二號橋脚根堀及基礎杭打を爲すものなり、工事日數四箇月間直營施行

一、永代橋々脚第二潜函一部組立工事

本橋梁は京橋區大川端町より深川區佐賀町二丁目に至る幹線第三號隅田川横斷ヶ所に架設せらるゝものにして橋長一八二米橋幅二二米中央徑間は鋼板繫拱にして左右側徑間に突桁を有する構造なるが曩に潜函一部組立に着手し客年十二月十八日竣功せしにより今回更に第二潜函一部組立を爲すものにして大正十四年一月二十三日起工工事日數二十五日間

隧道病の研究

世界で第六番目の大トンネル上越南線の清水越六マイルは漸く高崎口三一六〇呎長岡口二二五〇呎全長の六分一を掘つたがこのトンネルは高崎口は米國式長岡口は新オーストリア式でやつてゐるが坑内坑夫の健康状態研究のため今度鐵道省では保健課の加藤技師小松醫師を特派する由更に四月からは兩口に送風器を据ゑつけ一分間五千立方呎の空気を送りその中にオゾンを入れるこいふ

大阪の高速交通機關

本年から工事にかゝる

地下線が實現するのは五年後

大阪市内を貫通する高速交通機關は市電氣局内に、清水工務部長を課長とする一課が設けられて以來、着々研究の歩を進めて來たが本年度から是非とも事業を開始することにしたいとの意氣込である急激に増加して行く市内交通を緩和するためには、姑息な應急策ではトテも駄目なのご都市計畫幹線の廣路が本年度から起工されるので、地下七尺のころから掘返さなければならぬ地下線工事をも同時にやつて、市民の迷惑を少くしやうと云ふので、急に工事着手の議が擡頭して來たのである。

路線は梅田から廣路に沿ふて、難波を経由、惠美須町に至る南北の一線と、玉造から築港に至る東西の線とし

その延長十二哩、工費約一億圓に達する見込である。工事方法は築港線の如き高架で差支ない箇所は傘式單脚の高架線とし中央部は地下線とするが隧道式によらず、地下七尺のころに開渠式の工事を施し、これを埋設せんとするのである。工事完成までには五箇年を要するが、工費は外債によらうとする方針ら

しく、角電氣局長の如きは専ら外債借入の研究に餘念ない有様である。清水工務部長は語る

ボーリングも済ませて大體地質の試験も済んでゐるのだから、今度は數ヶ所に井戸を掘つて實際的に試験した上で是非とも本年度から具體的の事業を開始したいと思つてゐる。路線についてもいろいろあつたが、高速度路線はドウしても市の大動脈とも云ふ、幹線によらなければ一般に利用されないで、廣路の下を走らせることになるだらう地下線工事についても十分の自信が出來たから五年後の大阪には地下線が走ることも空想でなくなつた必ず市の獨力でやつて見せる決心で電氣局では財政方面についても十分な調査が整つてゐる。(大毎)

上野公園に拱橋式の大陸橋

十八間と百間の鐵骨混凝土

東京市内焼失區域の土地區劃整理は委員會でほゞ決定を見たので來る四月一日から決定地區は工事に着手することになつた、又上野の見晴臺と櫻雲臺間の屏風坂上に架設してある凌雲橋は之を取毀してその代り屏風坂の勾配を埋立て、現在兩大師前から車坂町の電車軌道を挟んで設計され幅廿間の新國道に面した大陸橋が架される事に決した、この陸橋は幅十八間長さ百間で鐵骨コンクリートの拱橋式にし之に依り完全に下谷淺草方面から上野山上に路面聯絡をさる譯だ、此の設計様式其他は目下復興局と市橋梁課で研究中だから完成の曉は兩大師傍の廣場に建設される東京博物館の三層樓と相對し帝都の一偉觀を呈するであらう。

駒形堂の再建

(伊藤忠太博士の設計によ
つて古風に……優美に)

東京浅草雷門の復活は決定したが、これを機会に浅草寺では浅草八景の一つ駒形堂を再建するに決定、竣工と同時に東京市へ寄附するここになった、舊敷地が新駒形橋の用地に編入されたので同橋畔の西詰に移轉し一般信徒の寄附を待つて工事を進める手筈になつたが設計其他は伊藤忠太博士が昔の面影を生かすために苦心してゐる、

附記 駒形堂は浅草寺附屬の佛堂で傳説によると推古帝の昔土師眞中知がその匠と共に宮戸川に漁し一寸八分の觀世音菩薩の金像を得て此處から上陸したと言はれてゐる土地で、その後は浅草寺の總門が建てられたことがあるとも謂はれてゐる、その創立は天慶五年平公雅と稱せられ、その後元祿十六年五代將軍綱吉の命によつて再建せられたことはその棟札によつて知れてゐる、震災前の佛堂は四間三間の土藏造りで本尊は運慶の作、駒形堂の名稱は浅草寺の繪馬堂で馬の繪馬を奉納して祈願し堂内にその繪馬堂が澤山あつたので何世となく駒堂々と稱し、又頼朝公が參拜した時に駒をいだことから此の名の地として詩に歌に俳句に咏まれ又浮世繪にも繪き出されて江戸名所として立派に位を占めてゐる。

工事に利用されるダイヤ

一カラット百三十ドル

鋼鐵材のすゑつけにダイヤモンドを使用するなきは夢にも知らぬ人が多いと思ふ、しかし今では鋼材をすゑつけにこれを利用する事がだんだんにふえて來た。米國のダイヤモンド商モーリス・ヂツソー氏の話しであるが、各

所の橋梁高樓建築には現にダイヤモンドが使用されてゐる、しかし今はまだ

◇初生時代 さいふべきである。この寶石を工業に利用したのはある時代ある齒醫者が南アフリカから取寄せたいさゝかのダイヤモンドを利用して陶器の義齒に穴をうがつたに始まるらしく、それが

◇應用され て今では堅い岩石を貫く智慧も出たのである。ある大鐵橋高樓建築を設計するに當りてダイヤモンド利用せん孔機の使用を思ひ立たば先づその仕事を加へる物質の硬度を考察する、それに對應してせん孔シリンダアのへりに付すべき六個以上の黑色ダイヤモンドを用意する、これは鐵カスに似た品であるが一カラット百卅ドルの價格があるであるから小さい工具でも千ドルはかかる、特にこの品は世界中を集めて產出量が極めて少い普通の坑内には發見せられずたゞ大小の川の水底に沈んで居るだけである、外觀は甚だ鈍い品に見えるが如何なる堅石をも木材のやうに切り裂く力がある。手にすればかなりのかゝりやきも現はれるが寶石として磨くには餘り

◇質が堅い ので方法がつかずダイヤモンドの中では原石で木材ならばふしに當る。種々の形狀の品をそのままに、仕事の程度に應じた適量の品を鋼鐵棒の端に簡單に付着するだけの手數で済む。次に注意を要するは鋼板に穴をあける場合には少量の鋼を間にはさむ事でこれにはダイヤモンドと鋼板とを密着させる利益がある。若しこれを怠れば磨滅が速かなるのみならずぬけ落ちる事があるからだ。